

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	21
都道府県名	岐阜県

【 □ 】

学校名及び規模

学校名	池田町立温知小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20	28
児童数	95	106	111	99	103	103	7	624	

研究の概要

(1) 研究主題

個に応じた「確かな学力」の定着と向上を図る少人数指導
～学ぶ喜びを求めて

(2) 研究主題設定の趣旨

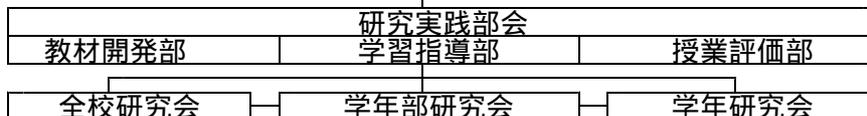
算数科を中心に、少人数指導を充実させることを通じて、基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、自ら学び、自ら考え、学んだことを生かし、学ぶ喜びを味わうことができる子の育成を目指した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

研究企画委員会 校長・教頭・教務・フロンティアティーチャー・研究部長

研究推進委員会 校長・教頭・教務・フロンティアティーチャー
研究部長・算数少人数指導・算数主任
国語主任・各学年1名



研究推進委員会を核とし、下部組織にフロンティアスクールとして期待される研究内容から3研究実践部会(教材開発部、学習指導部、授業評価部)を設け、研究内容を分担し、お互いが連携を図り、推進していく体制を整えた。

(2) 研究の実際

- 少人数指導のための学習集団の編制
- 児童の実態や単元、単位時間の学習のねらいに応じて、確かな学力の定着と向上を図るための少人数指導の学習集団を柔軟に編成する。

学習集団の種類と編制の仕方

学習集団	有効性	編制の仕方
習熟度別学習集団 ～	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をもとにして考えたり、技能の習熟を図ったりするといった系統性のある学習内容については効果的である。 児童一人一人の学習速度を重点においた場合は、ペース別学習集団として構成することも効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が決めるのではなく、それまでに課題に取り組んできた結果やプレテスト、確かめテストなどの結果をもとに教師と相談しながら、または自分でコースを選択する。 低学年では、発達段階を配慮し、家庭との連携を図り保護者の要望も取り入れながらコースを決めていく。 低学年での学級内におけるTT形式の習熟度別学習では、その時間内に行う確かめテストにより、児童の実態に応じて教師がコースを決める。
等質学習集団	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を通して学習する内容や多様な見方や考え方を見つける場合などに効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ等質になるように、生活班や出席番号、座席等で編制する。

課題や方法別学習集団	・興味・関心や追究の仕方に応じて学習が進められる場合に効果的である。	・課題や方法を自己選択する。
TT形式の学習集団	・単元の導入で単元全体の見通しや共通の学び方を全員に確実にもたせる時や多様な考え方を交流する時、個別指導が特に必要な時に効果的である。	・学年または学級で行う。その場合、担任に加えて少人数指導担当がつく。

学習集団を編制する時の留意点

- ・児童の実態や単元、単位時間のねらいに応じて編制する。
- ・優劣意識をもたないように十分に配慮する。(差別する言葉や行為を許さない思いやりのある学級経営の充実)
- ・指導する教師は固定しない。児童も固定しない。
- ・コースを選ぶのは、児童。一方的に教師が決めたり、押しつけたりしない。
- ・発達段階を考慮して、コースを選択する観点を指導し、自己選択・自己決定ができるようにしていく。
- ・コース決定後も児童の実態や希望によって移動は可能である。
- ・どのような願いで学習を進めていくコースなのか、どのような学習方法で進めていくコースなのかを児童及び保護者に知らせる。
- ・児童の意識や保護者の考えを参考にし、学年間の連携を図って編制にあたる。
- ・保護者にアンケートをとり、改善できる点は改善する。また理解を求めることが必要な点は様々な方法で啓発する。

コース別学習の重点

	基礎・基本を確かに身に付ける	基礎・基本を生かし問題解決	多様な問題を解決
じっくり			
どんどん			
チャレンジ			

どのコースでも自分の考えをもったり、友達と交流したりする時間を設定する。

習熟度別学習集団を編制する時の方法

プレテスト後の習熟度別学習

- ・プレテストの結果より(正確さ・速さ)
- ・個人の願い(じっくり取り組みたい等)
- ・保護者と相談
- ・児童の実態
- ・教師と相談
- ・教師の助言

自己選択

1クラス2Tで指導

じっくりコース

どんどんコース

単元確かめテスト後の習熟度別学習集団

- ・プレテストの結果より(正確さ・速さ)
- ・個人の願い(じっくり取り組みたい等)
- ・保護者と相談
- ・単元を通しての児童の実態
- ・教師と相談
- ・教師の助言

自己選択

3クラス5Tで指導

じっくりコース

どんどんコース

チャレンジコース

- ・下記の6つのモデルに基づいて少人数指導、習熟度別学習を行い、より個に応じた指導ができるように実践をしてきた。どのような単元で、どのモデルで習熟度別学習を行ったらいいかは次の表の通りである。単元指導計画にも位置づけた。

温知小	習熟度別学習モデル	効果
モデル	1クラス2TでTT行う習熟度別学習の方法	発達段階を考えた1年生や、2年生の初期に効果的である。ex.1年「ひきざん(2)」
モデル	単元の基礎・基本を指導する段階では、の形態で行い単元の終末に1クラスを2コースに分かれて行う習熟度別学習の方法	発達段階を考えた1年生や、2年生の初期に効果的である。ex.1年「ふくしゅう」
モデル	単元の基礎・基本を指導する段階では、等質集団で行い、単元の終末に1クラス2Tで行う習熟度別学習の方法	発達段階を考えた低学年(主に2年生)や、習熟度の差が小さい時に効果的である。ex.2年「かけ算の九九(1)」
モデル	単元のはじめから、1クラス2Tで行う習熟度別学習の方法	習熟度の差が大きい単元の時に効果的である。ex.4年「角」
モデル	単元の基礎・基本を指導する段階では、1クラス2Tで習熟度別学習を行い、さらに単元の終末に3クラス5T(学年TT)で行う習熟度別学習の方法	習熟度の差がさらに大きい時に効果的である。ex.3年「3けたのひき算」 ex.5年「小数をかける計算」
モデル	学期末や、学年末に3クラス5TT(学年TT)で行う習熟度別学習の方法	習熟度の差が大きく苦手な内容(単元)が明確な時に効果的である。 ex.6年「レツトラライ レツ チャレンジ(6年のまとめ)」

(3) 研究の成果と課題

- ・6モデル化した少人数指導、習熟度別学習を行うとともに、その実施にあたり学力の評価や児童による授業評価を生かし、児童の実態を踏まえて、指導法を工夫したことにより、より個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。
- ・習熟度別学習では、各コースのねらいをふまえ、習熟を図る学習プリントの作成や自分の考えを表す学習プリントを作成することができた。
- ・児童に行ったアンケート結果(平成15年3月、7月、12月実施)では以下のような声が生まれてきている。

あなたは算数の授業が好きですか。

算数の勉強はよく分かりますか。

	3月	7月	12月
好き	61	63	61
どちらでも	24	27	30
嫌い	15	10	8

	3月	7月	12月
分かる	64	68	72
どちらでも	28	27	26
分からない	8	4	2

(%)

[低学年]どんな学習方法が好きですか。

学級単位で担任 20% T.T 21% 少人数 59%

[中学年]学習するとき、どのわけ方がいいですか。等質 27% 習熟度別 73%
習熟度別学習がよいわけ(自分のペースで進める、じっくり進めて分かる等)

[高学年]学習するときどのわけ方がいいですか。等質 4% 習熟度別 96%
習熟度別学習がよいわけ(詳しく教えてもらえ、分かりやすい、自分に合った学習ができるから、苦手なことはじっくりコースでゆっくり取り組みたいから、自分のペースでできるから)

保護者のアンケート結果

算数における少人数指導について賛成か反対か。賛成 97% 反対 3%

賛成の理由(教師の目が届きやすいし自分のペースで学習ができる。)

反対の理由(担任でないと不安、優劣意識が芽生えるのではないか)

賛成であっても不安に感じている人が多い。

(4) 研究成果の普及の方策

西濃地区協議会における授業公開と分科会参加

西濃地区協議会と兼ねて公表会を行った。全ての教科における個に応じたきめ細かな指導を中心とする授業改善の様子を、西濃地区の全ての小学校からの参加者に示した。また各研究部会の分科会において、全体的な発表では十分に説明しきることができない内容について、実物等の資料を示しながら具体的に説明した。実践内容のホームページへの掲載

研究紀要をはじめ、学校の取組の様子を逐次学校のホームページに掲載するよう努めた。西濃教育振興事務所のホームページともリンクさせ、閲覧できるようにすることで、より多くの人目に触れることを願った。

フロンティアティーチャラーの活動

温知小学校以外で行われた3回の地区協議会に全て参加し、分科会において温知小の取り組みを紹介するとともに、分科会で交流させる他校の実践について、フロンティアスクールの実践の成果や課題を含めた助言を行った。

(5) その他

- ・児童や保護者の声を生かした授業改善に努めている。アンケートを実施する以外に、授業終了直後に児童に授業についての思いを尋ね、日々の授業を児童にとってわかりやすく楽しくなるものにしていくよう、一人一人の教師が心がけている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級
13~18学級 19~24学級
25学級
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
生活 音楽 図画工作 家庭
体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

・個に応じたきめ細かな指導を充実させるために、様々な学習形態を用意し、単元指導計画に位置付けるとともに、学習内容と児童の実態を踏まえて学習形態を柔軟に適用している。少人数指導やT.Tを実施する際のより効果的な方法や配慮事項を分析的に捉えて実施しながら、児童や保護者の声に耳を傾け、その改善を図っている。